

一雨ごとに秋が深まってきました。収穫の秋ですね！

いよいよ11月3日(火・祝)は、上条を活性化する会による「野菜販売会とダイコン収穫体験」が開催されます。会の皆さんが丹精込めて作ったダイコンや里芋を今年も多くの方にお届けできたらと思います。

上条農園 ダイコンの間引き

9月27日(日)、上条農園にて、上条を活性化する会によるダイコンの草取りと間引きが行われました。畝の間に生えてきた小さな草をたちがんなを使って丁寧に取りました。また、同じ場所から2株発芽しているダイコンは元気の良い方のみを残して間引きをしました。間引きしたダイコンの葉は美味しくいただきました♪



みんなの畑 里芋の収穫

10月25日(日)、みんなの畑にて、上条を活性化する会による里芋掘りが行われました。まず、あらかじめ葉を取った後、ユンボで株を掘り上げました。そして、土を払いながら子芋を一つ一つ手作業で丁寧に取り分け、日に当てて乾燥させました。今年の里芋は全体的に小ぶりでしたが、たくさん収穫することができました！親芋は、来年の収穫に向けて種芋として越冬保存しました。



今年はトウノイモも収穫！
茎も食べられます。

神金小学校 校外学習会レポート！

10月14日（水）、神金小学校4～5年生13名が校外学習として裂石山雲峰寺を訪れました。神金小学校では、地域を知り、地域に誇りが持てるよう毎年、総合的な学習においてテーマを決めて、地域学習を行っています。今回のテーマは、雲峰寺・大菩薩峠・黒川金山・花魁ぶちの4つです。

実際に現地を訪れ、国重要文化財に指定されている雲峰寺本堂・庫裏・書院・仁王門の建物の特徴を見学するとともに、武田家（信虎・信玄・勝頼）の時代から受け継がれてきた歴史を学びました。昨年度、上条集落を見学した5年生の皆さんからは、「庫裏の屋根と同じ材料を使っている建物を上条集落でも見た！」という声上がり、上条集落での学びが活かされることを感じました。

雲峰寺からは遠く離れていますが、秋晴れのもと大菩薩峠・黒川金山・花魁ぶちについてのお話も説明させていただきました。なかでも、黒川金山の歴史や「金」に関わる伝説について、とても興味津々の様子でした。

【雲峰寺と武田家の関わり】

奈良時代

745年 雲峰寺 開創

室町時代

1532 火災によりお堂のすべてを消失。

1555 その後、再興に向けて武田信虎が印判状を与えて励ます。

安土桃山時代

1573 武田信玄が武運長久を祈願する文書を納める。

1582 武田勝頼自刃後、家臣たちによって武田家の家宝（日の丸の御旗・孫子の旗・諏訪神号旗・馬標旗）を納める。

上条集落見学で学んだ、金井加里神社にも伝わる、財宝のありかを指す歌「朝日指す夕日かがよう丘の辺の雀のおどり半なか」を覚えていた5年生が多く、4年生に教えてあげる姿がありました。

実際に現地を訪れ、ひとりひとりが地域の自慢を発見し、目を輝かせている姿がとても印象的な校外学習でした。



■ 昨年の上条集落見学の様子

現在の5年生、6年生13名が現地見学に訪れました。

裂石山雲峰寺（臨済宗妙心寺派）

所在地 甲州市塩山上萩原2678

開創 天平17年（745）

開山 行基（668～749）

昨年度、神金小学校では、「ふるさと学習発表会」で雲峰寺の伝説の演劇をしたそうです！

■ 雲峰寺のはじまりの伝説

臨済宗妙心寺派裂石山雲峰寺は、天平17年（745）日本の歴史上初めて朝廷から大僧正の位を送られた僧・行基が開創したといわれています。

伝説によれば、行基が修行に訪れた夜、霊雲が烈しい光を帯びて雲峰寺の上にまたたき、山や谷を大いに震わせたそうです。そして、山中にある大石が真二つとなり、その石の裂け目からは萩の大樹が生え、さらに石の上に十一面観音が現れたといわれています。

それを目の当たりにした行基は、萩の樹を切り取り、十一面観音の尊像へと彫刻し、一庵に奉祀しました。大菩薩峠や萩原といった周辺の地名も、この由緒に基づいていると伝えられています。



■ 雲峰寺本堂（左）・庫裏（右）

境内の本堂・庫裏・書院・仁王門はすべて国重要文化財に指定されています。また、宝物殿内には武田軍旗「孫子の旗」「諏訪神号旗」「日の丸の御旗」「馬標旗」が保存されています。